

事業コード	H18-建-継-27		区 分	国庫補助 県単独
事業名	総合流域防災事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災 (tel) 018-860-2515
路線名等	梵字川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	秋田市和田		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	S52 ~ H20 (32年)	総事業費	16.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長 L = 1,550m 計画高水流量 Q = 67m ³ /s					
事業の立案に至る背景	梵字川は、河積が狭小な河川であることから家屋浸水、道路冠水など浸水被害が発生し、地元住民に多大な被害を与えている。このため引き続き事業の促進を図っていくものである。					
事業目的	本事業は、岩見川合流点から河川全体計画区間である比較的資産の多い区間について河道改修を実施し、洪水氾濫による災害を未然に防止し、民生の安定を図るため河川改修事業を推進するものである。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	1,600,000	1,600,000	0		
	経費内訳	工事費	1,050,200	1,050,200	0	
		用補費	357,200	357,200	0	
		その他	192,600	192,600	0	
	財源内訳	国庫補助	800,000	800,000	0	
		県債	720,000	720,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源	80,000	80,000	0			
事業内容	河道掘削工、護岸工	河道掘削工、護岸工				
事業の進捗状況	全体計画 平成17年度末投資額 進捗率	16億円 14.2億円 88.8%				
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	国道13号河辺拡幅計画 上位計画である、秋田21総合計画の中で、快適で安全な生活を実現するため、災害に強い県土づくりを目指して河川改修をするように位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	県全体の予算の制約に加え、国道13号河辺拡幅計画との事業調整に期間を要してしまい、平成10年度から休止せざるを得なかったが、平成15年度から再開し早期完成を図るものである。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	河川砂防課調べ	
	実績値 b	44.4 %				
達成率 b/a	100.5 %		把握の時期	平成18年5月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	過去に家屋や農地の浸水被害が発生し、早期の完成が望まれている。	22点
緊 急 性	河川改修が未実施の区間については、特に流下能力が低く、川幅も狭小であるため、災害発生危険度が高い。	10点
有 効 性	あきた21総合計画に位置づけられており、改修により災害防止効果の発現が期待される。	20点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は、2.61であり非常に効果が高いと言える。 効率性 安価な護岸を採用してコスト縮減を図り、事業促進を図っている。	13点
熟 度	事業開始時より宅地開発による市街化が進み、農地が減少してきている。	15点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H18-建-継-27)
箇所名 (秋田市和田)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	想定氾濫区域内の状況						
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	7			
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3				
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設 無し	5 3 0			5	
	整備計画の策定						
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある 予定無し	5 3 1 0	3			
	計		30			22	
	緊急性	災害発生危険度					
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 5	7		
		秋田県水防計画					
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3			
計			15		10		
有効性	上位計画への貢献度						
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5			
	河川整備の有効性						
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない 安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	7 0 5			7	
	親水性	親水性は現状と変わらない	0				
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある 予定無し	3 1 0	3			
	計		20			20	
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比(B/C)	2.0以上 1.0以上~2.0未満 1.0未満	5 3 0	5			
	事業実施コストの縮減						
	該当項目数	3項目以上 2項目 1項目 無し	5 3 1 0			3	
	当初計画との比較						
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5			
計		15	13				
熟度	環境との調和への配慮状況						
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で検討している 特に配慮はない	5 3 0	5			
	地元との合意形成の状況						
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1			5	
	事業の進捗状況						
進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90~100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	10 5 3	5				
計		20			15		
合計			100	80			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		